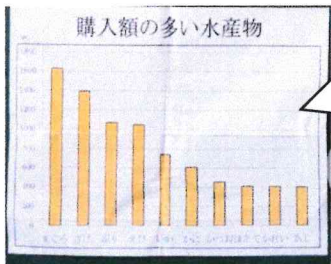
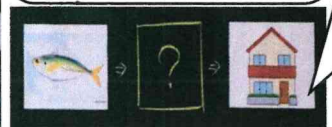


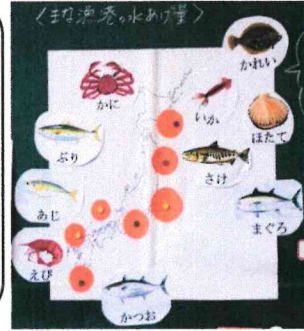
# 水産物のさかんな地域



日本人はたくさんの種類の水産物を食べているね。



漁港はどこにある？  
どうやってたくさんの魚をとる？  
どうやって新鮮なまま運ぶ？



## 学習問題

水産物がさかんな地域では、どのような工夫をして、水産物を消費者に届けているのだろう。

### 学習問題に対する予想を基にした学習計画

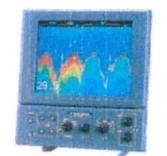
予想を分類することで調査内容を明確にする

### 水産物をとる工夫

<巻きあみ漁>



<魚群探知機の活用>



<無線で情報を共有>

沖合漁業がさかんな長崎漁港では最新の機器を活用し、船団を組んだ漁船同士がそれぞれの役割をもって協力している

### 消費者に届ける工夫

大量の魚を新鮮なまま全国へ輸送



加工することでいつでも食べることができる

### つくり育てる工夫

<養殖漁業>



<栽培漁業>



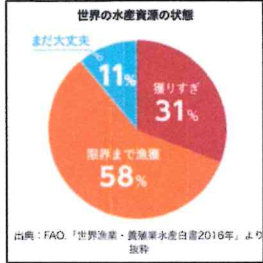
つくり育てる漁業によって、漁獲量や品質を向上させることができ、環境にも配慮することができる

## 学習問題の結論

水産物がさかんな地域では、生産性や品質を高めるために工夫や努力をし、新鮮さを保ちながらわたしたちのもとに運ぶことで国民の食生活を支えている。

「これからの水産物について」 ~ 持続可能な水産物の発展について多角的に考える ~

### 社会に見られる課題の把握と「海のエコラベル」の教材化



### <展開例①>

課題をつかませる

既習を揺さぶる

生産者や消費者の立場から、学習したことを基に取組を考える

### <展開例②>

エコラベルはどんなもので、どんな課題を解決するのか

なぜ取組が広がらないのか

あなたはどのように考えますか (主体的に~を考えようとしているか) (多角的に考えているか)